

3/11、東京地裁ミノ原裁判長は高原保釈要求を却下した。我々は、ミノ原の暴挙を絶対に許さない。必ず、「高原奪還、ミノ原糾弾、超長期拘留粉碎」斗争に勝利する。目を転ずれば、4/17斗争をマルクマールとして三里塚鉄塔決戦では我々総体の全力量が問われている。かくて、一方でブルジョア階級のファシズムが強まり、他方に、プロレタリア階級の突撃力が強まっている。いよいよ戦争と革命の時代の幕は上がった。国際一国内の階級斗争は激化する。こうして、日本プロレタリア階級は、わが党の「朝鮮革命と結合して、日本革命へ」の総路線の下に、戦争をプロ独・社会主義革命でおし止める斗いに決起せねばならないのだ。

今日、米ソ二大帝国主義の覇権争奪、第三次市場分割戦は、いよいよ激化し、第三次帝国主義間戦争への突入は不可避免になりつつある。ソ連社会帝国主義は、SALT IIによって時間をかせぎ、空隙をぬって全世界に覇権を求め、アンゴラにいた数千の傭兵部隊をザイール共和国に侵入させ占拠する。同時に、「ソ連の沿岸水域の生物資源保護と漁業規制に関する暫定措置」という法令を発布し、更に二百カイリ漁業水域法案も発布する中で漁業資源の独占を計った。今日のソ連は、フルシチコフ、ブレジネフが権力を握り、修正主義の路線を全面におし進めた結果、ブルジョア階級独裁の帝国主義に変質し、ソ連労働者勤労人民に徹底した搾取、収奪、抑圧と政治的弾圧を加え、サハロフ氏等の民主主義斗争に対する抑圧を一例としてソ連労働者勤労人民の斗争を血なまぐさく虐殺している。ソ連帝は、利潤を追い求め世界に覇をとなえている。

これに対し、第三世界の民族解放斗争はアジアの社会主義国諸国、特に中国を根拠地、大後方、中核にして固く団結しつつある。中国人民は、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想に立脚し、反覇権反米反ソの二正面戦を組織する中で、プロ文革を堅持し上部構造の各分野においてブルジョア階級にたいする全面的な独裁を強化し、修正主義を批判し、資本主義的傾向を批判し、ブルジョア権利思想を批判し、旧社会の母斑を洗い流し、生産関係の社会主義化を更に推進し、ブルジョア権利を統制し、賃金の撤廃と三大差異の廃絶に向かって斗い、ブルジョア階級の復活を絶対に許さない条件を一步一歩つくりあげつつある。

# 4·17三里塚 鉄塔決戦へ



## 革命通信

第12号

77.4.1

定価 200円

連絡先 横浜  
中央郵便局私書箱119号  
井 上 和 美共産主義者同盟  
マルクス・レーニン主義派

米帝は、社会主義中国とソ連帝を斗わせ、漁夫の利を得ようと考えたが、中国の二正面戦略に粉碎され、自力で対ソ戦を組織せざるをえなくなった。新大統領カーターは、第三次大戦に備え、一九七六年六五〇億ドル、七七年には、一〇〇〇億ドル近い赤字を計上している米財政を建て直し、欧州を中心とした反革命戦略の整備にやっきになつていて。かかるなかで、第二世界は、つまり、「二流の帝国主義国である西欧と日本は、資本主義の高度成長が破綻し、プロレタリア階級の階級斗争が激化し、ブルジョア階級独裁のブルジョア民主主義的統治形態が危機に陥りつつある」（「綱領草案」）

### ブルジョア階級独裁の統治形態の天皇制フアシズムへの転換と福田内閣

米ソ二大帝国主義の第三次市場分割戦が始まり、激化する。同時に、七六年の一時の後退をはね返し、アジアの社会主義諸国と結合した民族解放斗争がアジア、アフリカ、ラテン・アメリカに拡大、発展し、アジアの民族解放斗争の次の最前線が朝鮮であることがはつきりする中で、日本ブルジョア階級は、「搾取者がこれまでのよううに生活し支配」できない事態に直面している。旧来、安保体制下の日帝は、ブルジョア階級独裁の議会制ブルジョア民主主義的統治を行なっていた。この統治形態は、日帝の高度成長を物質的基礎とし、アジア人民から略奪し、蓄積した巨額の超過利潤の一部で労働運動の「指導者」を買収し、議会で選出される自民党内閣を通じ、ブルジョア階級の利害を貫徹するブルジョア階級独裁の最良の「政治的外被」であった。しかし、高度成長が破綻し、恐慌が深まる中で、独占ブルジョア階級は、国家独占資本主義を強化し公債発行、低金利政策、独占価格の実現、低賃金、臨時工・社外工・パートの切り捨て、中小下請企業への注文の削減によって、かかる事態をのりきらうとしている。他方、中小ブルジョア階級は、恐慌の災禍を労働者勤労人民に転嫁する、と同時に、独占ブルジョア階級に収奪される中で経営危機に直面している。中小企業の二月の倒産件数は一三六四件、負債総額一九一〇億にのぼっている。十八ヶ月連続千件以上の中倒産が続き、負債は連続二四ヶ月間千億以上である。かかる中で労働者勤労大衆の貧困と窮乏が予想以上に激化し、今まで通り

## 社会主義社会は相当長期にわたる歴史的段階である

の生活を維持しえなくなり、労働運動は、総評、同盟、IMF・JCの枠を越えて高揚し、労働争議は、社外工・臨時工・パート・中小企業の労働者を含みいたるところで勃発し、戦斗化、長期化している。今春斗で労働者は大巾賃上げを何としてでもかちとらねばならない。我々は、JCペースに抗し、長期化、泥沼化を恐れず斗いぬかねばならない。共産主義と労働運動を結合し、大巾賃上げだ。

恐慌の進行にさいして労働貴族は、いつせいにブルジョア階級のがわに脱走しはじめた。IMF・JC、同盟に対し総評も例外ではなくかねばならない。共産主義と労働運動を結合し、大巾賃上げだ。楳枝は、同友会との会合で「対決から協力の時代にはいった」とのべ、総評がブルジョア階級の公然の同盟者であることを明らかにした。つまり、今日、「『下層』がこれまで通りに生活することを『欲しない』といっただけではたりない。さらに『上層』がこれまでどうりに生活することが『できなくなる』」という情勢下に日本は突入しているのだ。かくて、日帝は、ブルジョア階級独裁の統治形態を天皇制ファシズムに転換することがアジア、特に朝鮮侵略反革命の強化と戦争のために、労働者階級のプロ独立・社会主義革命の予防反革命のために必要になった。天皇制ファシズムはブルジョア階級独裁の軍事的支柱であり、民社党、公明党、江田新党、社会党、「日共」などは、社会的支柱である。江田の社会党離党は、天皇制ファシズムの「イチジクの葉」である議会に於ける保守二党化の先鞭をつけたものであり、必ず、自民党の大分裂へと波及する。

首相福田は、ブルジョア階級独裁の統治形態を天皇制ファシズムに転換せんとしている。三里塚空港年内開港指令、沖縄基地確保法案制定策動などは一例である。二百九イリ問題に対し、福田内閣は、ソ社会帝にあなどられる、と同時に、これを反共・排外主義に利用し、一気に、十二カイリ領海権と二百カイリ漁業権の獲得を目指し、アジア、特に朝鮮侵略反革命を強化せんとしている。こうした福田内閣に対し、「屈辱外交」だと批判する「毛沢東思想派」の一部の諸君は、首相福田のブルジョア的狡知の前に屈服し、事実上、プロレタリア階級独裁、社会主義革命を放棄せよとプロレタリア労働人民に説教しているのである。問われているのは、プロレタリア階級の強化であり、かかる日帝の二面派を根定から、暴力革命で紛糾し、プロ独立権力を樹立し、もってソ社会帝と対決することである。

## 南朝鮮の反日反米朴打倒、朝鮮の自主的平和統一、在日朝鮮人の民主的民族権利の斗争を断固支持し、日本革命を斗いぬけ！

4／19学生革命17周年を目前にして南朝鮮学生は、昨10／15新民主救国宣言の提起に応え、活発な活動を展開している。金日成主席は「新年の辞」で「新しい年に、南北朝鮮の全人民と海外にいるすべての朝鮮同胞は、民族大团结の原則にたって力を合わせ、かたく團結して民族共同の大業である祖国の自主的平和統一をかちとる」そう力強く展開している朝鮮労働党と人民の斗争を支持する。そして、朝鮮半島の同胞と共に朝鮮統一をかちとる、と同時に、日帝の民族的抑圧に抗し、民主的民族権利の斗争を推進している在日朝鮮人民の斗争を支持する。

日本「韓」安保体制下の朴政権は、南朝鮮人民の斗争を押しとどめるために72年10月「維新体制」を宣布した。「維新体制」によつて、全権を掌握した朴正熙は、「国家保安法」「反共法」、緊急措置9号、「社会安全法」と、これらの法を執行するKCIAによつて戦前の日帝以上の人民抑圧、暗黒支配を行なつてゐる。かかる朴政権に命を賭として斗い続ける統一革命党を先頭にした南朝鮮人民に連帶し、日帝打倒、プロ独立、社会主義革命をとことん推進する義務が我々はある。カーターの在「韓」米軍撤収方針が、従来の日本「韓」安保体制にヒビを入れるものでないことは、3月23日「日本共同声明」によって明確になつた。かくて、我々の任務は、プロレタリア国際主義の輕重を問う重大な斗いなのだ。

マルクス・レーニン主義党の指導なくして、マルクス・レーニン主義党の勝利はありえない

レーニンは、「革命的理論がないなら、強固な社会主義党はない。革命的理論はすべての社会主義者を統合するものであり、この理論からして社会主義者は、自分の確信のすべてを汲みとり、この理論を自分の斗争方法と活動方式とに応用するのである」「革命的理論なくして革命的運動もありえない」と、くり返し述べている。今日の革命的理論とは何か。それは、マルクス・レーニン主義の全歴史段階を通じてプロレタリア階級独裁を堅持し、社会革命を続行しなければならない。『綱領草案』によつて武装した革命党だけがプロレタリア労働人民全体の前衛を統合し、そして、組織することができる。この前衛だけが、労働大衆の避けられない斗争、小ブルジョア的動搖や、プロレタリアートのあいだの職業組合的な偏狭さ、あるいは、職業組合的偏見の避けられない伝統や再発に抗対でき、プロレタリアート全体の統合された活動全体を指導すること、すなわち、プロレタリアートを政治的に指導し、プロレタリアートを通じて労働大衆を指導することができるのである」（レーニン）

マルクス・レーニン主義党の指導なくして、プロレタリア階級がプロ独立・社会主義革命に進撃することは不可能であり、ましてや、中・貧農、都市小ブルを「指導する」ことはできない。社会主義統一戦線の成否は、マルクス・レーニン主義党の創建いかんに関わつ

ている。

いかに、革命党を創建していくのか。具体的には、二つの方向がある。第一は、自力更生の下に、社会主義を宣伝、扇動、組織し、革命戦争を準備し、武装して斗う非合法党を目指す方向、第二は、マルクス・レーニン主義によるブンド系の統合、ブンド再建、第三次ブンド結成の方向である。この二つの方向を一個二重のものとして考えねばならず、一方に偏ってはならず、偏れば、必ず清算主義、投機主義が発生し、共産主義者の革命的団結の流れに棹さすことになる。

### プロレタリア階級の軍隊が必要である！

レーニンは『国家と革命』でプロレタリア革命は「國家機構を粉砕し、打ちくだかねばならない」と、指摘した。76年タイ10／6反革命はプロレタリア階級が突撃力を、ブルジョア階級独裁のブルジョア執行権力、つまり、軍隊、警察、官僚機構を集中すべきであることを事実によって教えた。天皇制ファシズムへの転換によって肥大化しつつある執行権力との斗争は、ブルジョア階級独裁の君主的、あるいは、議会制ブルジョア民主主義的統治形態の時期と異なり、きわめて厳しく一回の戦術ミスが斗う人民の大なる犠牲を強制する

### ミノ原某の保釈拒否を断固として糾弾する

3月11日、東京地裁ミノ原某は、よど号ハイジャック斗争被告である高原氏の保釈要求を非転向を唯一の理由にして拒否し却下した。このミノ原某のファシスト的攻撃に対して我々は腹の底からの怒りをもつてこの極右、反革命、ファシスト分子を糾弾する。そして、必ずや高原氏の保釈をこのミノ原からもぎ取る斗いを貫徹することを全国の友人、そして救援戦線で苦闘している人々に宣言しておきたい。

3月11日、ミノ原は「公判は裁量保釈を行う段階に今だ達していない」ことを理由に高

原氏の保釈要求を拒否した。型通りの「証拠インメツ」「逃亡のおそれ」と云つた公式的理由を口実とすることが出来なくなつた今、「公判の進行」の問題に保釈拒否の理由をス

右翼浪人四人が殿様・土光の不在を見はからつて、経団連城を占拠したが、浪人どもの友人である直参旗本公安局三課の警部補と三島未亡人の投降勧告に応じ、財界ボス共のお城を奇麗に掃除し、お殿様の使う茶わんや灰皿も洗つて、お縄を頂戴するなど考え辛抱たまらず、真先に飛び出す小ブルジョアを利用

この田舎芝居に、財界首脳は「左翼に攻撃されるのなら分るが、彼らは大きな誤解をしている」と本心を吐露した。

敵の奇襲に警戒し、前衛党建設で備えよ！  
右翼浪人四人が殿様・土光の不在を見はからつて、経団連城を占拠したが、浪人どもの友人である直参旗本公安局三課の警部補と三島未亡人の投降勧告に応じ、財界ボス共のお城を奇麗に掃除し、お殿様の使う茶わんや灰皿も洗つて、お縄を頂戴するなど考え辛抱たまらず、真先に飛び出す小ブルジョアを利用

「彼らは大きな誤解をしている」と本心を吐露した。

独占ブルジョア・大ブルジョアは、未曾有の、この危機の時代に光はいまやかけらほども見い出することはできない」という本音は、

右翼や総会右翼ばかりが溢れる、奴等の世界ではマシな連中とのことであるが――の主張した「東洋の君子国」とうたわれた日本の栄光はいまやかけらほども見い出することはできない」という本音は、

独占ブルジョア・ファシスト・椎名の「栄光の帝国主義」やマムシ・福田の「教育勅語は正しい、戦前の日本人は立派」と同質である。

比叡等はそろって、天皇陛下万才！で一致しており、南朝鮮、東南アジアの新植民地支配が人民の決起の中で危うくなつていても現

場合もある。ここからブルジョア執行権力の粉碎を計画的前段的に実現する必要がでてくる。かつて、マルクスは「プロレタリア階級は

独裁の第一の条件はプロレタリアートの軍隊である。労働者階級は戦場で自分自身を解放するための権利をたたかいとらねばならない」と述べている。また、レーニンは『軍事綱領』で被抑圧者がもし武器を掌握し、またそれを獲得することを習得するよう努めないとすれば、かれらは奴隸とみなされるほかあるまい」と、指摘している。

我々が、「奴隸とみなされたくなかったなら、プロレタリア階級の軍隊を持ち、軍事を習得せねばならない。日本革命に於いて軍隊は、社会主義統一戦線の一機関として建設される。ゆえに、結成するプロレタリア階級の軍隊とは、労農同盟を基礎とした労働者、貧農半プロレタリア、中農、都市小ブルジョアを人民とした軍隊のことである。この軍隊は、プロレタリア革命の勝利の後にもプロレタリア階級独裁のもつとも重要な支柱として堅持される。プロレタリア階級の軍隊は、マルクス・レーニン主義で武装して人民の新しい型の武力なのである。しかし、社会主義統一戦線が当面結成出来るみ

組織戦を行い、第二に、もつて党を強化し、革命戦争の準備し、組織戦を行う段階ではないと云ふのである。保釈拒否の理由は「公判の進行」などでは断じてない。プロレタリア保釈獲得のシユプレヒコールで地裁を振り動かそう。

ア階級への度し難い恐怖、そして社会主義革命を堅持し非転向を貫徹し、プロの最高形態である党による遊撃戦を目指さねばならない。

### 息苦しさに飛び出した小ブル・右翼の田舎芝居と諸階級の態度

#### 四・一六を記念し、戦前共産党から学び

#### 敵の奇襲に警戒し、前衛党建設で備えよ！

在、その腐れきった植民地権益、人民の生き血を吸い続けるために、全面的に軍事侵略反革命を開始し、再び「東洋の君子国」にしようとしているのである。

危機の時代、息苦しさに飛び出した小ブル・ファシストはヤルタ・ボツダム体制打倒、つまり米ソ二大帝国主義の世界支配にかわって、天皇陛下の日本が世界を支配しようと檄を発した。

・ボツダム体制打倒、つまり米ソ二大帝国主義の世界支配にかわって、天皇陛下の日本が世界を支配しようと檄を発した。

ア・土光をして「彼等は大きな誤解をしている」といわしめた。

独占ブルジョアは言う。

「小ブル・ファンズド君。わが二流帝国主義・日本にはアメリカや

・ボツダム体制打倒、つまり米ソ二大帝国主義の世界支配にかわって、天皇陛下の日本が世界を支配しようと檄を発した。

ア・土光をして「彼等は大きな誤解をしている」といわしめた。

独占ブルジョアは言う。

「私は、朝鮮や東南アジアならなんとかいけうんだ。もちろん、

たまえ、朝鮮や東南アジアならなんとかいけうんだ。もちろん、

「確かに、アルタ・ボツダム体制はよくないし、現に崩壊しつつあ

り、必ず崩壊するだろう。だが、それは天皇制ファシズムの世界制

覇などではなく、反米反ソ反覇権の赤旗を揚げる世界人民の革命によってである。米帝とソ連社帝の覇権争いの中で、うまく立ち廻り、アジア侵略を強め、勢力圏を広げようとする日帝を許さず、社会主義革命へ進み、新生日本を建設する。だが、この右翼浪人といい、江公民の跳梁といい、明らかに、悪い連中に騙され、小ブル大衆が動搖しているのが最近の特徴だ。彼等をペテン師どもから引き離し、社会主義統一戦線に組織せねばならない。それには、彼等を引っ張つていける労働者階級の強固な前衛党が必要だ。」

以上が、田舎芝居に対する諸階級の態度である。

# 4行二里塙鉄塔決戦に決起せよ！

## 社会主義、労働運動と農民運動の結合の下――

よ！ 結集せよ！ 4・17 斗争に決起せよ！ 「社会主義・労働運動と農民運動の結合の下、三里塚鉄塔決戦勝利」を合言葉に三里塚へ出征せよ！

金での同志諸君！労働者勤労人民諸君！

斗争をメルクマールとする三里塚鉄塔決戦は、現下に於ける我々革命立場・人民と日帝の決戦となつた。〔開港〕は堺港が一の進歩を決

命を奪う人間と日本帝の汚辱になつた「開港場が開港場か」の雌雄を決する段階に突入したのだ。米ソ第三次大戦の可能性が軍縮會議の空洞化、デタントの放棄の中で増大する、と同時に、一定の後退を強制された民族解放斗争がタイ・フィリピン・アラブ等で再び激化し始める中で、二流の日本帝国主義は、二百カイリ問題でソ社帝にあ

などられる、と同時に、歐州市場と米市場から西欧諸帝と米帝から排撃されている。こうして、日帝のアジアの、特に朝鮮侵略反革命の強化とブルジョア階級独裁の統治形態の天皇制ファシズムへの転換が右翼4人組の田舎芝居をテコに、いよいよ激化、本格化しつつある。かかるブルジョア階級独裁の危機を反映し、福田は何が何んでも「本年度中に三里塚空港を開港する」と宣言したのである。これを受けて天皇ヒロヒトは公団一大塚に対し「大変でしそうが頑張つて下さい」と叱咤激励している。

同志諸君！労働者勤労人民諸君！ 三里塚十余年の斗争は民主主義斗争の最高の地平を切り拓き、現下のブルジョア階級とプロレタリア階級の二大階級の決戦場である。4／17斗争に圧倒的多数の労働者勤労人民が結集せねばならないのだ。かかる結集力によつてブルジョア階級と執行権力を根本から搖さぶり、三里塚斗争を「安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命」の一大堡壘に転化・発展させねばならない。そのためには、マルクス・レーニン主義で武装したわが党が「社会主義・労働運動と農民運動は結合せよ！」の旗を高々と揚げ、最先頭で斗いぬかねばならないのだ。

三里塚斗争の戦斗性・持久性

近代日本百年に於いて、農民が國家権力と10余年にわたり戦い続けたことはない。この戦斗性・持久性はどこに由来するのか。安保体制下で日本ブルジョア階級は、朝鮮特需と農民の都市下層プロ化による低賃金作りによって、安価な工業製品を米国に輸出してきた。こうした従属帝国主義として復活した日帝は60年を境に「経済援助」の名目で、アジア侵略反革命に乗りだした。65年日「韓」条約は日帝のアジア侵略反革命の一大飛躍であった。66年、当時の首相佐藤は、中国に於いてプロレタリア文化大革命が始まる一方、他方ベトナムインドシナ民族解放斗争が勝利的地位を戦取する情勢にあって、日米支配階級の要請をうけ、6月22日、急拠「第二国際空港を三里塚にする」と千葉県知事友納に提示した。ブルジョア階級は、当初においては富里を空港予定地にしていたが、反対斗争の激化に直面する、と同時に、国際－国内階級斗争の急速な煮つまりの中で、急転直下三里塚に変更したのであつた。ここから三里塚斗争の戦斗性と持久性の第一の根柢が引き出される。それは、こうした結果、三里塚斗争は発端から、政府－公團－執行権力の三位一体的反革命

犠牲の上に、資本主義工業を肥太的に發展させる中で、農民を徹底的に収奪し、榨取していることにあると。

同志諸君！勞動者勤勞人民諸君！

以上から、我々の第一の任務は、三里塚10余年の戦斗的民主主義闘争の地平を踏まえ、今春三里塚鉄塔決戦が、現下の革命的左翼人民、つまり、プロレタリア階級とブルジョア階級の一大決戦場であることを明らかにし、全国津々浦々から北総三里塚の地に巨万の人民を結集させることである。第二の任務は、「日本革命において、プロレタリア階級は貧農＝半プロレタリアと同盟し、中農＝小ブルジョア、都市小ブルジョアをひきつけて社会主義統一戦線を結成する」（『綱領草案』）ことの必要を宣伝し、かかる方向に労農学共斗を革命的に発展させる第一步として斗いぬくことである。三里塚農民いや全農民の未来は労農同盟を基礎とした社会主義統一戦線による安保粉碎・日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命」によつてしかかちとれないものである。第三の任務は、第一、第二の任務を遂行する中で、わが党を鍛え、組織を作りあげ、自力更生と第三次BUNO統合の二つの党建設の方向を推進し、マルクス・レーニン主義の武装して斗う非法党の創建に邁進することである。

攻撃を真向から受け、一切の曖昧さ、ヌエ的状態が許容されなかつたことである。第二の根拠は、反対同盟が「農地死守」から出発しつつ、富里で果敢に斗った農民が三里塚へ空港設置が変更されるやいなや、「空港さまざま」に転化した事実を反面教師とし、第一一二次強制測量阻止の中から、私有財産制度をのりこえ、土地の解放、共有化の地平を獲得してきたことである。第三の根拠は、67年11／3斗争を端緒に、以来今日まで労農学共斗を作り、成長・発展させプロレタリア階級を主導とする社会主義統一戦線の崩芽をかちとつてきたことである。第三の根拠は、反対同盟が、67年12／5の「日共」排除決定で明確にした如く、修正主義・社帝潮流の「日共」、革マルの改良主義・純プロ主義と非妥協に斗い続けてきたことである。かくて三里塚斗争は10余年の長さにわたり実力斗争を首尾一貫して堅持しぬき、71年9／16東峰十字路斗争の輝しい成果を戦取しえたのである。

同志諸君！労働者勤労人民諸君！

二一里塙問題の中でも、社会主義農業と農業、農民問題を取り組もう。

# 農民運動と社會主義・労働運動の結合

農業の展望は社会主義革命のみである  
に対する闘争である。第二に、日帝と革命的左翼、人民の現時点での  
決戦である。第三に、日帝の農業破壊に反対する闘争である。

戦後の米帝による農地改革は、不徹底ながら民主主義革命であり、基本的に、戦前からの農業における封建制は解体され、小商品生産の農業を創り出し、国内市場を提供して、工業における資本主義の高度成長の条件となつた。しかし、農業における資本主義はゆるやかにしか発展していない。

「資本主義のもとでは、農民の搾取が『産業プロレタリアートの榨取』とらうのは形式的の点ごとである。榨取者は同一のもの、すな

わち資本である。個々の資本家は、個々の農民を抵当や高利貸付によって搾取する。資本家階級は農民階級を国税によつて搾取する』(『フランスにおける階級闘争』)」(レーニン『カール・マルクス』)。

義にあり、安保体制による日帝と米帝の連合支配にある。だから、日本の農業の将来の展望はプロレタリア階級独裁、社会主義革命のみにあり、安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命のみにある。

(二) 農民は貧農、中農、富農に分解している。

「この農民は次の三つの主要グループにわかれる。すなわち、もつとも数の多い、プロレタリアートにもつとも近いもの、すなわち半プロレタリアまたは貧農、ついで中農、最後にごく少数の富農または農村ブルジョアジー」（レーニン『偉大な創意』）。

貧農とは、生産手段を私有するが、それだけでは生産できず。一定期間労働力を売つて賃労働に従事する半プロレタリアである。中農とは、生産手段を私有するが、家族労働に限られ、他人労働を搾取していない、そして、自分の労働力を売つて賃労働に従事する必要もない小ブルジョアである。富農とは、生産手段を私有し、他人の労働力を買い、賃労働者を搾取しているブルジョア、農業資本家である。

現在、工業ブルジョア階級による農民に対する激しい収奪、搾取の結果、農業は衰退している。農業における資本主義はゆっくりとしか発展せず、農業は依然として小商品生産が中心である。しかし、中農＝小ブルジョアの没落が急速に進行し、農民は大部分が貧農＝半プロレタリアであるが、その賃労働は農業ではなく工業で行なわれている。農業における資本主義、富農＝ブルジョアの形成はゆるやかにしか進行してなく、依然として農業の中心である小商品生産は中農＝小ブルジョアではなく貧農＝半プロレタリアによつて經營されている。専業の減少と兼業の増大である。

(三) プロレタリア階級は貧農と同盟し、中農を引き付け、社会主義統一戦線を結成せよ！

レーニンは「ピチソム・ソローキンの貴重な告白」で「富農との闘争を一瞬間も放棄せず、貧農だけにしつかりと依拠しながら、中農との協定を達成する能力をもつこと——これが当面の任務である」と言っている。また、「プロレタリアートの独裁の時期における経済と政治」で、「社会主义とは階級をなくすことである」と言い、そのためには「労働者と農民の差異をなくし、すべての人を働き手にしなければならない」が、「それは、社会経済全体の組織的改造によってはじめて、個別的な、孤立した小商品経済から大規模の共同経済に移行することによってはじめて解決できる」と言い、さらにそのためには「プロレタリアートは、勤労農民と所有者としての農民——働き手としての農民と小商人としての農民——働く農民と投機者としての農民を区別し分けなければならない」と言っている。

中農＝小ブルジョアは「社会主義革命の原動力ではないが、敵でもない」（同）。「農民をはじめとする勤労人民が他人労働を搾取しないで私有している土地その他の生産手段については、プロレタリア階級独裁国家の下で社会主義の集団所有とするよう説得する」（同）ことによって、「プロレタリア階級は、貧農＝半プロレタリアと同盟し、中農＝小ブルジョア階級を引き付けて社会主義統一戦線を結成し、暴力革命で日米安保体制を粉碎し、日本帝国主義を打倒し、米帝国主義を放逐し、プロレタリア階級独裁を樹立し、社会主義を建設しなければならない。」

#### (四) 土地闘争と社会主義革命を結合せよ！

帝による農地改革が民主主義革命としては不徹底であり、耕地を解放して農民の所有に移しただけで、主として天皇制国家権力の所有であった広大な山林、原野は農民に解放されず、主としてブルジョア階級独裁の国家権力の所有に移されたからである。そして、ブルジョア階級は、國家権力を通じて独占するこの広大な山林、原野を農民に解放もせず、資本主義農業に利用もせず、工業用地、投機、軍事基地などに回しているからである。これによつて小商品生産の農業は危機を加速され、ここから、農民の土地解放闘争が闘かわれているのである。これは民主主義闘争である。プロレタリア階級は、この農業の土地解放の民主主義闘争を支持しなければならない。同時に、土地不足は農業危機の原因の一つだが、根本的原因ではなく、農業危機の根本的原因は資本主義にあり、小商品生産にあることを明らかにしなければならない。そして、農業危機の根本的な解決のために、社会主義革命、集団化による社会主義農業が必要であることを説得しなければならない。広大な山林、原野は、ブルジョア階級独裁の国家権力を打倒して樹立されるプロレタリア階級独裁の国家権力の所有へ移され、集団化、社会主義へ進む農民に解放され、地代なしで貸し与えられることを明らかにしなければならない。土地闘争と社会主義革命の結合である。

# 判し、革命的労働運動を構築しなよ

我同盟は既に紙上に於いて今春闘の特徴を明らかにしてきた。それはブルジョア階級攻撃の特徴としての賃金統制による搾取の強化を更に押し進め、①公共料金の値上げを軸にインフレと投機による収奪の強化を押し進め、③IMFJC、同盟等帝国主義労働運動を育成し労使協調路線を押し進め、④非妥協的に実力斗争を展開する斗う労働戦線をファシズム的に弾圧し尽くすという内容を持つてゐる。更に労働戦線側は75・76春斗連続敗北を総括しつも、春斗共闘会議はそれを突破する方策を見出せず、①鉄鋼ベア＝IMFJC主導型の賃上げ斗争に踏み止まり、②国民春斗として没階級的に大衆拝跪しきト回避に走り、③斗う労働戦線の虐殺に走るという文字通りの右翼的傾向に陥っている。そして既成労働運動に拘束されない、いわゆる戦斗的労働運動の潮流は、中小零細単産労働者を軸に拡大しつも、下放運動＝労働者に学ぼうという限界を持ち労働者階級の最大の任務である権力奪取を彼岸に追いやる経済主義に陥る部分と、それと同根であるが、労働運動＝ソビエト運動として二重権力を夢想するサンジカリズム、小ブル急進主義の姿を露わにしてくる部分が登場してきている。

我々はこうした状況を厳密に分析し批判しきり、マルクス・レーニン主義に領導された革命的労働運動構築に前進していかなければならぬ。

## 一、帝国主義労働運動を打倒しない限り 労働者階級の勝利はありえない

戦後労働運動が企業別組合運動としてその戦斗力を示して以来、産業組合もまた企業別組合の連合体として組織されてきた。それは日本の企業が、明治期に於ける殖産工業の時代から終身雇用制、年功序列制、更に財閥にみられるように家父長的、徒弟制的労使関係をその特質として有していたことと考え併せれば、企業組合主義が生に於ける土壤は日本資本主義そのものが持つてゐるものといえるであろう。そうした企業組合主義は必然的に企業内労資協調主義、即ち「会社のために」という労働者意識を生み出しているものといえる。帝国主義労働運動はこうした日本民間企業の特質を媒介として登場してきている。IMFJC（金属労協）は文字通りそうしたものであるし、「民間労組会議」もまた右翼的労働運動の中軸をなしているのである。春斗を質斗といふに落し込め、そのヘゲモニーを握り春斗ベア基準を打ち出す鉄鋼労連、電機労連等はまさに労使協調の帝国主義労働運動である限り、我々は帝国主義労働運動を解体し現在の春斗方式そのものを解体しきつていかなければならない。彼らは公然と階級性を放棄し、「労働者の経営参加」を今春斗の目標にさえしているのである。

77春斗についてみていく。IMFJCの議長でもある鉄鋼労連委員長である宮田義二は昨年秋、賃上げミニマム論を提案した。即ち消費者物価の上昇率を最低限とする賃上げで実質賃金を維持するということである。しかしこれは物価上昇、インフレを容認する論理であり、労働者勤労人民の収奪に追随的に労働者の生活を指定する全く逆転した論理である。そしてこの論理には資本の搾取、収奪、即ち企業収益の集中集積と労働者階級の抑圧という構造を全く度外視した論理である。もちろん宮田自身、帝国主義労働運動の先兵であり、奴にとつては当然の提案であるだろうが、我々はこうした帝国主義労働運動の先兵が春斗を領導していることを断固批判し打倒していかなければならない。宮田の提案によると77春斗ベアは消費者物価上昇率九・二%となり、春斗共闘会議一五%を下回ることになるのである。

こうした賃上げ一つをとっても、帝国主義労働運動が資本の手先となり労働者階級の生活不安、貧困に加担しているかが明らかのことになるのである。

であろう。我々は労働運動の右傾化は既に何度も明らかにしてきた。しかし歴史が証明しているように右傾化した労働運動は資本に買収され、帝国主義、社会帝国主義労働運動に転化し、労働者階級解放の一大事業に敵対してくるのである。それ故、我々は批判の武器を武器の批判に変え、奴らを打倒し抜いていかなければならないのだ。

## 一、小ブル急進主義労働運動を打倒しなけ れば労働者階級は勝利できない

我々は共産主義者同盟（赤軍派）の成長の病いをテロリズム、経済主義として明らかにし批判克服してきた。しかし労働運動において全体的な右傾化の中で小ブル急進主義者はその「せつかち病」の本性を露わにし主観的に意味付与して労働運動を蜂起の準備として短絡せんとしている。

共産主義者同盟が「政治過程論」において60年安保以降の敗北感を打ち破り労働者、学生の先闘性を覚醒し60年代斗争の戦端を切つたということを我々は最大限に評価し、同時にその自然発生性への拝跪、小ブル急進性を克服せんとしている。BUNDのそうちた党派性である戦闘性と世界性を我々は目的意識的な職業革命家の組織であるプロレタリア革命党建設とその系統的な正規の攻囲の建設によって継承し小ブル性を払拭せんとしている。今、労働戦線に問われているのは、本来、「革命の学校」である労働組合を領導する革命路線の問題であり、マルクス・レーニン主義に裏付けられた労働運動の構築である。

前号でも批判を明らかにしたけれども、労働運動をソビエト建設を目的として構築することは中央権力＝ブルジョア階級独裁を無視して二重権力を想想することであり、革命は権力問題であるという観点を曖昧にするものである。特に高度に発達した資本主義国家「日本」に於いて、例えばあの広大な中国の如き根拠地、ソビエトを建設することはユートピア以外の何物でもない。

小ブル急進主義の一方の頭目、プロ革派は盛んにソビエト建設を呼号しているが、これこそ共産主義者同盟赤軍派の敗北の総括を反古にするものであり、死者をして苦笑を封じえないものであろう。更に笑止すべきことは彼らは「77春斗大爆発を第二次前段階決戦へ転化せよ！」を今春斗のスローガンにしている。これこそ蜂起をもてあそぶ小ブル急進主義者の本性であり、春斗という大衆的労働運動と革命運動の区別と連関、即ち「共産主義と労働運動」に対する無知を表わしていること以外何物でもない。

現在、問われているのは、ゲリラ戦から始まる蜂起の準備である。それを系統的に裏付ける正規の攻囲の構築であり、労働運動をマルクス・レーニン主義に領導された正規の攻囲に組織することである。小ブル急進主義者は「過程としての戦術」即ち敵に規制された自然発生的な戦術を重視するが、マルクス・レーニン主義者はプロ独立社会主義革命に向けた「計画された戦術」を重視する。蜂起をもってあそぶではなく、確実に勝利に向けた蜂起を貫徹するために、組織せよ、組織せよ、組織せよ！

77春斗に表われた小ブル急進主義の傾向は未だ小さいものであるが、「上層も下層もこのままではやっていけない」政治危機の倒来の中で、テロリズム、小ブル急進主義者は更に本性を表わすであろう。我々は彼らを批判し抜きマルクス・レーニン主義に領導された革命的労働運動構築に前進していかなければならない。

## 三、日本帝国主義は今春斗で

何を策謀しているのか！

我々は帝国主義労働運動、小ブル急進主義労働運動では日本帝国

主義のブルジョア階級独裁を打倒しないことを明らかにしてきた。それは日帝ブルジョワジーが70年以降打ち続々インフレ不況、恐慌の停滞状況の真只中で、更なる延命のために権力再編を余儀なくされ、権力再編の実体である天皇制ファシズム的統治形態の完成に向かって、労働者階級の斗いを全くる手段を駆使して押し潰そうとしている現実があるからである。高度成長期に於けるようより多くの利潤配分を「といったブルジョワジーとの密月的な春斗方式はもはや解体せざるをえないものである。

日帝ブルジョワジーの権力再編と奴らの策謀の実体は何か。それは60年代における設備投資主導型経済の中でインフレと過剰商品の膨大な産出の中で、国内消費がもはや限界にぶちあたり、設備投資の還元もなしえず在庫商品を抱え不況に突入していくという現実に強制されたものである。こうした国内矛盾は資源を持たない国としての日本に対する原油値上げ、いわゆる石油戦争と、ベトナムにおける帝国主義の盟主一米帝の敗退、即ちベトナム、インドシナ革命戦争の攻勢という外的原因をも併せて、日帝を文字通りの危機的状況に陥し込んでいるのだ。古典的帝国主義であるならば、こうした過剰資本、過剰商品を膨大に抱え危機に陥るならば、ストレートに市場分割戦、帝国主義戦争に突き進んでいくであろう。しかし現代過渡期世界に於ける帝国主義は反革命戦略を軸として、労働者階級、革命勢力を圧殺しえない限り、市場分割戦を発現できないのである。それ故、正に帝国主義戦争を貫徹しない限り延命しえない日帝ブルジョワジーは、まずファシズムを組織することによつて延命の道を突き進まんとしているのだ。「上層も下層もこのままではやつていけない」（レーニン）危機的状況の中で、戦後相対的安定期の産物である「平和と民主主義」「ブルジョワ議会制民主主義」というイチジクの葉は枯れ落ち、いまやブルジョワ階級独裁イコール自民党独裁という図式は多党化現象、「中道」政治の躍進としてあらわれているのである。

日経連桜田がいみじくも言つたように「例え自民党が後退しそのような連立政権ができるようとも警察、司法、官僚がしっかりといれば大丈夫」という本音は、ファシズムを組織することを公然と表明したものに他ならないのである。「ブルジョワ議会制民主主義的統治形態から天皇制ファシズム的統治形態へ！」これが日帝ブルジョワジーのスローガンである。

この統治形態の転換は何を目的としているのか。それはもはや戦争でしか延命できえない日本帝国主義の市場分割戦・朝鮮侵略・反革命の強化と戦争遂行体制を完成させんがためである。

日帝にとって69年佐藤訪米に於ける日米共同声明「朝鮮は日本にとって生命線である」以来、一貫して朝鮮半島に於ける危機を本国帝国主義の利益を軸に展開している。今回福田訪米に於ける日米共同声明もまた「世界の中の日本」として朝鮮に於ける米帝の全面的な肩替わりと朝鮮侵略反革命の布石を着々と打つものであった。我々は南朝鮮人民の英雄的斗いに断固連帯し、自主的平和的南北統一と、南朝鮮の民主主義革命、朝鮮民主主義人民共和国のより一層の社会主義革命の推進を断固支持し、日帝の朝鮮侵略反革命戦争を革命戦争で打ち破つていかなければならない。

我々は日帝の策謀を以上のように暴露してきた。その立場に立つかぎり、「自民党政府打倒！」を叫び、ブルジョワ議会制民主主義の後押しをせんと、政府問題、政策問題に現下の情勢をかり縮める経済主義者などを批判していかなければならぬ。現在問われているのは正にブルジョワ階級独裁かプロレタリア階級独裁かをめぐる権力問題である。そうした時に「自民党政府打倒！」を叫び、天皇制ファシズム的統治形態の転換を全く無視することは日帝ブルジョワジーの頭目どもが言うところの「自民党が倒れても……」ということと全く同じであり、最終的にファシズムの暴虐に踏みつぶされていくのである。我々はこのことをはつきりと見据えていかなければならぬ。

今春斗においてもしかりである。冒頭に提起した賃金統制、帝国主義労働運動の育成、斗う労働者の弾圧という攻撃は、権力再編を軸に押し進められているものであり、単に経済的問題に止まるものではないのである。それ故、今春斗においてブルジョワジーが勝利的に進むならば労働者階級はますますファシズムと朝鮮侵略的革命

の泥沼に落ち込んでいくであろう。こうしたことを見抜けぬ総評民同の楳枝議長は、「労働者の経営参加も考慮する余地がある」などと言い、労使協調の道を歩まんとしているのであり、実質的な春斗敗北宣言をしているのである。ガイドライン15%という国民春斗会議の賃上げ要求は同盟、JCに迎合したものであり、帝国主義労働運動に道を開くものであることを我々ははつきりと批判していかなければならない。戦争遂行内閣を構築せんとする福田が昨年労働運動への昂揚に対する鎮圧を明言したということを見るならば、天皇制ファシズム的統治形態の転換と朝鮮侵略反革命戦争に向けた日帝ブルジョワジーは総力をもって春斗つぶし、革命的労働運動つぶしを策謀していることは明らかであろう。

#### 四、日帝打倒、米帝追放、プロ独社会主義革命と結合した労働運動を構築しよう

敵の策謀は明らかになった。革命の要素も高まり、戦争の要素も高まっている。こうした情況を我々はプロ独社会主義革命の立場でつかみとり、革命的労働運動の組織化に全力を傾注していかなければならぬ。現在、青年労働者は総評や同盟、JCの枠を超えて斗争を組織しつつある。例え自然発生的であれ、既成指導部を批判し、新たな胎動を模索せんとしている多くの労働者に注目しなければならない。それは全国寄宿労働者であり、南大阪の多くの労働者であり、東京各地で燃え上がるとしている争議労組である。彼らは未だ経済主義、小ブル急進主義の残しを残しながらも、日本労働運動にとつてもはや無視しない立場に立つていて。それは日帝ブルジョワジーの攻撃が、資本の集中、集積をより一層押し進め、全体的に組織不安定労働者を中心とした斗いは遼原の火の如く燃え広がつていることを我々は、はつきりと見据え、それらの斗いを自然発生的に意味付与することなく、マルクス・レーニン主義に貫かれたプロ独社会主義革命の労働運動として指導し組織していかなければならぬ。

「共産主義と労働運動の結合」これこそがマルクス・レーニン主義の最大の課題である。労働者階級は個々の斗争を勝利し抜くことは重要ではあるけれども、生産手段をプロレタリアートが奪還し、生産関係を変革しない限り賃金奴隸からの解放はありえないのである。個別資本の斗いを目的意識的に総資本一ブルジョワ独裁権力打倒まで押し上げていくことが全ての労働者に問われているのである。

帝国主義、社会帝国主義労働運動を打倒し小ブル急進主義労働運動を批判し抜き、マルクス・レーニン主義の革命的労働運動を構築しよう！

## わが『綱領草案』の下に団結し、労働者階級に服務し、 プロ独・社会主義革命と学生運動の結合を克ち取れ！

### (1) 全国の斗う学生同志諸君！

今こそ、革命的学生は日本労働者階級の戦斗旗たる我が綱領草案の下に団結し、労働者階級に服務し、共産主義と学生運動をがっちりと結合させ、日本労働者階級人民の解放の唯一の道たる「安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独・社会主義革命の勝利」に向けて、日本労働者階級の前衛党＝武装し斗う非合法のマルクス・レーニン主義党創建、労働者階級に指導された人民の社会主義統一戦線の結成、この統一戦線の一翼を任う革命的学生運動の建設という「正規の攻団」（レーニン）を実現することを、当面の全活動の目的、第一の任務としなければならないことを我々は訴える。

現在、日本帝国主義の支配＝ブルジョア階級独裁は、自民党政府の危機、議会制ブルジョア民主主義の危機が進行し、今まで通りにやつてゆくことができなくなり、日本労働者階級の歴史的胎動＝社会主義革命への反革命のために、天皇制を前面化し、官僚、警察、軍隊などの執行権力を肥大化させ、両者を結合させ、統治形態を天皇制ファシズムへと反動化させつつある。これは、南朝鮮の反米反日朴打倒の民族民主革命の爆発が不可避であり、これに対する日帝の朝鮮侵略反革命戦争が不可避であること、日本資本主義の高度成長が破綻し恐慌が進行し、国家独占資本主義の下での搾取・収奪・抑圧の強化に対する労働者階級人民の憤激と斗いが、修正主義・社会帝国主義の支配と統制を突き破り、革命的高揚へと向かいつつあることなどによって、一層促進されている。

総じて、日帝ブルジョア階級が今まで通り支配していくことができなくなり、プロレタリア階級人民が今まで通り支配されることを拒否するようになり、体制的危機が始まり、深まり、「革命情勢」（レーニン）が端緒的に始まっている。「戦争と革命の時代」、天皇制ファシズムとプロ独・社会主義革命の大激突の時代が始まっている。

### (2) プロ独・社会主義革命と学生運動

日帝は労働者階級を主体とする革命情勢の発展と朝鮮侵略反革命戦争前夜情勢のつまりに対し、早急な天皇制ファシズムへの統治形態の転換を目指し、天皇制・天皇制イデオロギーを基軸に差別主義・排外主義・権威主義を強化し、小選挙区制、刑法改「正」、「入管法」攻撃、三里塚軍事空港の強行的「開港」策動、狹山差別裁判強行攻撃、教育・大学のファシジョ的再編－全国大学の筑波大学化などの暗黒と反動、戦争の大攻撃を労働者階級人民にしかけてきている。これに対し、労働者階級人民の大衆斗争は①朝鮮侵略反革命に反対し、戦争に反対する斗争、②反動化に反対し天皇制ファシズムに反対する斗争、③国家独占資本主義の下での搾取・収奪・抑圧に反対する斗争、として発展・爆発しつつある。

そして学生も労働者階級人民の斗争に触発され、自然成長的に三大水路に引き入れられ、日帝の天皇制ファシズム攻撃－大学のファシジョ的再編に抗し、不当政治処分、学費値上げ、校舎移転、厚生施設（学館、学生寮、サークル棟、生協）などをめぐる民主化斗争、経済斗争に、又、狭山、三里塚に連帶する大衆的政治斗争に決起してはじめている。



1969年1月18日 東大決戦  
(於東大安田講堂)、戦斗的  
学生は、死力を尽し、政治警察  
と斗いぬき、全国人民の感動させた。

我々はこうした学生の決起、斗争を断固支持する。と同時に、我々はこうした学生の大衆化斗争、経済斗争、大衆的政治斗争への自然成長的決起に対し、これらの斗いが日本労働者階級の指導のもと、日帝打倒・プロ独・社会主義革命と結びつき、学生は、労働者階級・勤労大衆と固く団結し、共にこの勝利に向けて斗かい抜かないならば、現在の学生の斗いは、真の勝利を克ち取ることはできないと主張する。

現在の日本資本主義社会とは、資本家階級が生産手段を独占・私有することによって、生産手段から分離された労働者階級を経済的に隸属させ（賃金奴隸制）、この結果労働者階級が作り出した社会的富を資本家階級が欲しいままに搾取し収奪している社会であり、そして、この政治的反映として資本家階級が國家権力を握り、執行権力＝警察・軍隊・官僚を使って労働者階級・勤労大衆に対して全面的な階級独裁を行ない、支配し抑圧している階級社会である。

しかし、現在、日帝の体制的危機の深まり－革命的情勢が始まつてある。日本労働者階級の社会主義革命への歴史的胎動が始まる中で、日帝ブルジョア階級は自らの階級独裁と資本主義を維持し、より一層、搾取・収奪・抑圧するため天皇制ファシズムへの転換を目指し、外に對して、南朝鮮－アジアでの植民地支配を維持し、南朝鮮人民の反米反日朴打倒の民族民主革命を虐殺するために、朝鮮侵略反革命戦争を準備し、発動せんとしている。

このことが、現在、学生をとりまく階級情勢の核心であり、現在の学生運動は今までに始まりつつある。日帝ブルジョア階級とプロレタリア階級勤労大衆の非和解的な一大階級攻防戦の中に、はつきりと位置づけられねばならない。

それでは、日帝ブルジョア階級の暗黒と反動、戦争という大攻撃を打ち破り、労働者階級・勤労人民、学生の進むべき道とは何か？それは、日本労働者階級を主力とし、この指導の下、団結した勤労大衆、学生による「安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、プロ独社会主義革命の道」である。つまり、労働者階級人民の暴力革命・革命戦争で、ブルジョア階級独裁の国家権力を打倒し、プロレタリア階級の国家権力を樹立し、資本主義的生産関係を廃止して、社会主義を建設し、共産主義を実現する革命こそが、帝国主義の暗黒と反動、戦争から労働者階級・勤労人民、学生を真に解放することができるのである。

全国の斗う学生は、日本労働者階級の指導の下、労働者階級に服務し、全人民に奉仕する精神をもって、日帝の天皇制ファシズム攻撃－大学のファシジョ的再編に對する、大学民主化斗争、経済斗争、大衆的政治斗争を斗い抜く、とともに、労働者階級勤労大衆と固く團結し、その偉大な斗争＝プロ独社会主義革命の戦列に加わり、勝利に向け斗い抜かねばならない。

このことこそ、日本学生運動の眞の目的であり、勝利の道なのである。

### (3) 革命的学生と学生運動の当面する任務

(1) 今年、一九七七年は、60年代後半の全国学園斗争の突破口となつた67年10・8羽田斗争から10周年にあたる。

学生の67年10・8羽田斗争から始まる激烈な斗争は、日帝機動隊の反革命暴力をものともせず、68年佐世保、王子、三里塚へと進撃を続け69年東大安田決戦、日大生数万の大決起を頂点とする全国学園斗争を、断固とした実力斗争をもつて決死的に斗い抜いた。

反革命－民青、協会、革マルの斗争敵対をはねのけ、公然と日帝打倒・社会主義革命、暴力革命をかかげ、斗い抜いた日本学生運動史上、比類なき戦斗性と実力斗争の地平を、現在の革命的学生と日本学生運動は、繼承し発展させなければならないのだ。

しかし、我々は以上の継承すべき点をふまえつかっての学生運動の中にあつた根柢的誤り、限界性をはつきりと見てとり、それを克服しなければならない。

つまり、第一は、労働者階級の階級斗争と階級独裁によって社会主義革命を実現するのではなく、小ブルインテリゲンチャである学生

の憤激と斗争によって社会主義革命を成そうとした誤まりであり、

第二に、日本帝国主義の教育政策や軍事外交政策などに反対する民  
主主義的政治斗争の発展・爆発の単純延長線上に、ブルジョア階級  
独裁の国家権力の暴力的打倒と社会主義革命が達成できるとした誤  
まりである。これらは、基本的に労働者階級の思想＝マルクス・レ  
ーニン主義ではなく、小ブルジョアの憤激を代表する急進民主主義  
(テロリズムと経済主義)であった。

それでは、学生運動を正しく労働者階級のプロ独・社会主義革命  
と結合させるマルクス・レーニン主義の路線とは何か？

それは、我が同盟M-L派の「綱領草案」に示された日本労働者階  
級の思想、政治、組織であり、全ての革命的学生は、我が「綱領草  
案」を承認し、支持し、この下に団結し、我同盟、労働者階級の指  
導を受け、活動することである。つまり、「安保粉碎、日帝打倒、米  
帝追放、プロ独、社会主義革命の勝利目指し、日本労働者階級の武  
装し斗う非法のマルクス・レーニン主義党を建設し、この指導の  
下、人民の社会主義統一戦線を結成する」という任務を遂行すること  
である。

このことが、マルクス・レーニン主義による、プロ独・社会主義  
革命と学生運動を結合させる要なのである。

革命的学生は、現在の学生運動を社会主義統一戦線の一翼を任  
う革命的学生運動へと発展させるべく、労働者階級に服務し、全人民  
に奉仕する精神をもって、断固、フントウしなければならない。

(2) 革命的学生は、現在強まりつつある。日帝の暗黒と反動、戦争  
の大攻撃に対し、大学においては、学生大衆の最先頭に立って、大  
学のファシズム的再編に対し、大学民主化斗争（民主主義斗争）、

学生の生活防衛斗争（経済斗争）を煽動、組織化し斗い抜かねばな  
らない。同時に、学生大衆に、これらの斗争の限界性を説明し、  
プロレタリア階級独裁、社会主義革命、暴力革命こそが、全ての事  
態を根本的に解決する道であることを宣伝し、これとの学生運動の

## ファシズムの転向強要を粉碎し、非転向で保釈を勝ち取るために支援を！

高 原 浩 之

労働者人民諸君！

東京地裁ミノ原裁判長は、三月一日、私  
の保釈要求を却下した。私と同じよど号HJ  
に加えて大菩薩破防法まで抱えている塙見君  
の保釈が、その後検事が抗告し、高裁判階で  
取り消されたとはい、地裁段階では認めら  
れているのに、私の保釈を地裁段階でも認め  
ない所に、ミノ原のウルトラ反動、反共ファ  
シスト振りが現われている。ミノ原は、保釈  
を手段として転向を強要し、転向で保釈の条  
件にしてきた。私はこれを拒否し、非転向で  
保釈を要求してきた。だから却下になつたの  
である。

保釈はブルジョア民主主義に基づく人民と  
ブルジョア階級独裁の国家権力との協定であ  
り、一定の妥協、譲歩はやむを得ない。私は  
上申書で、①転向強要は不当である、転向し  
はしない。革命運動を続ける。②しかし、逃  
亡はせず、非合法、公然活動はせず、合法、  
公然活動をして出廷すると言つてある。しか  
し、ミノ原は、合法、公然活動もやめる。革  
命運動そのものをやめる。転向すると言つて  
いる。それを要求しているのである。ブルジョア階級  
独裁でも、ブルジョア民主主義ではなく、フ  
ァシズムできているのである。これとは、私  
は非妥協的に闘争する。

ミノ原は反動であり、ファシストであると  
はいえ、まだ腰がふらついており、あちこち  
を気にしてる。これは、ブルジョア階級独  
裁の統治形態がファシズムへ転化しつつある

とはいえる。まだ多くの面でブルジョア民主主  
義が残っていることに規定されている。塙見  
君が大衆斗争で地裁から保釈をもぎとったこ  
とは有効に利用できる。保釈獲得闘争は継続  
している。身柄引受人などのブルジョア民主  
主義的な条件を整えて闘えば、ファシズムの  
転向強要を粉碎し、非転向で保釈を勝ち取る  
ことは可能である。

(1) 転向強要粉碎！

ミノ原は、革命運動を続けて再犯を起こし  
て逃亡する恐れがあるという論理で、逃亡の  
恐れをなくすることを要求する形で、実は、  
革命運動をやめる。転向すると上申書で言う  
ことを要求してきた。実際に転向しなくとも、  
しかし、転向すると言わせようとしたのであ  
る。これは単なる裁判所の面子の問題ではない  
のである。

ミノ原は、革命運動を作り出し、歯止めがき  
かなくなして、次には本物の転向の状況を作り  
出そうとするものである。戦前の共産党はま  
さにこうして敗北し、解体されたのであり、  
それを踏えたブルジョア階級独裁の国家権力  
の戦略的攻撃である。根本的には、「転向か  
？ 獄死か？」、「第二の佐野、鍋山か？」、  
第二の市川正一か？」というファシズム攻撃  
である。

(2) 非転向貫徹！

現在、日帝は、ブルジョア階級独裁の統治  
形態を、議会制ブルジョア民主主義から天皇  
制ファシズムへ転化しつつある。ブルジョア  
階級は、天皇制を前面化し、軍隊、警察、官  
僚機構を肥大化しつつある。  
しかし、恐れる必要はない。実は、人民が  
今まで通り支配されることは望まなくなり、  
ブルジョア階級が今まで通り支配していくこ  
とができるなくなっているのである。マルクス  
・レーニン主義党を建設し、社会主義統一戦  
線を結成し、天皇制ファシズムを攻撃し、全  
民の武装を実現し、暴力革命で天皇を頂点

結合を煽動し、組織化する任務を遂行しなければならない。

そして、今春期、日帝の朝鮮侵略反革命戦争と天皇制ファシズム  
に向けた一大攻撃は、三里塚鐵塔大決戦、狹山最高裁決戦を全人民  
的な決戦として押し上げつつある。

革命的学生と学生運動は、この今春期二大決戦に決起し、その最  
先頭で斗い抜かねばならない。

この二つの十余年にわたる大衆的大政治斗争は、我々が主張する、  
全人民のプロ独と社会主義を目指す統一戦線、社会主義統一戦線の  
原形を、労農水学の共斗として作り出しており、社会主義統一戦線  
結成に向けた、斗う労働者階級人民の偉大な橋頭堡として存在して  
いる。

革命的学生と学生運動は、断固として、この二大決戦に参戦し、  
この橋頭堡を守りぬき、ここで作られた斗う人民の戦斗的團結を、  
普段に学生運動を腐敗させ、ダラクさせ、敵に各個撃破され敗北さ  
せられるだけでなく、大学を資本家に忠実な労働手代を生み出す温  
床とさせてしまうのである。

げよ！

革命的学生と学生運動は、こうした現在の基本的任務を徹底的に  
遂行すること以外に、労働者階級、勤労大衆から信頼され、共に前  
進する学生運動など、有り得ないし、又、こうした任務の放棄は、

普段に学生運動を腐敗させ、ダラクさせ、敵に各個撃破され敗北さ  
せられるだけでなく、大学を資本家に忠実な労働手代を生み出す温  
床とさせてしまうのである。

全国の斗う学生同志諸君！

今こそ、日本学生運動は、労働者階級の指導の下、「朝8時の太  
陽の如き」（毛沢東）健全さを取りもどし、日本労働者階級人民の  
勝利の栄光に向けて、バク進していこうではないか！

我が「綱領草案」、真紅の戦斗旗の下に！

とする軍隊、警察、官僚機構を粉砕し、プロレタリア階級独裁を樹立する道を突き進まなければならない。

保釈問題は、マルクス・レーニン主義の建設のための、天皇制ファシズムとの思想闘争、政治闘争である。この観点から、保釈をテコとした転向強要に対しても闘かなければならぬ。

急進民主主義の個人主義を自戒しなければならない。かつて我々がそうであった急進民主主義は、共産主義革命を主觀的決意、個人的闘争で実現しようとして、實際には小ブルジョアインテリゲンツィアの資本主義に対する憤激を代表しているだけである。個人の主觀的決意、闘争を共産主義革命の原動力としているから個人主義となる。自分が出獄するこ

とが組織にとって一番重要であると考え、革命のために、組織のために、偽装転向をしてでも出獄しようとする。しかし、これは、實際には、革命にとって、組織にとって、利益よりは損害が大きい。歯止めがきかなくなつて、次には本物の転向が続出する。このことを自戒し、マルクス・レーニン主義

# 『アジア』なら米軍は出ていけ！朝鮮革命と結合し、日本打倒、米帝追放の日本プロレタリア社会主義革命へ！

三・ソウルでは、KCIAの軟禁弾圧を突破した人々によつて「拘束者のための祈とう会」が開かれ、労働者民主救国宣言が用意されていた。労働者民主救国宣言は、南朝鮮において、労働者階級が奴隸労働と無権利状態に置かれて居ることを明らかにし、労働者の民主的権利獲得を宣言している。

こうした労働者宣言が出たことは、分裂騒ぎ以降、朴政権に恐れをなし、党員かつ指導者である金大中救出のデモひとつ組織せず、あろうことか、米軍撤退反対デモを組織し、朴政権を喜ばせた崇米事大主義者・新民党の堕落が顕著になつてゐる時、非常に意義深いものである。

共産主義者を赤鬼ときめつけ、民族の悲願、祖国統一を真底望まず、分断を前提として、北に対抗する方法が、暗黒独裁か、ある程度の民主化か、という違いしかない朴政権と新民党的国会茶番劇に騙される者はもう居なくなつてゐる。

民族ブルジョアジー・新民党は心の底では、労働者、農民の決起を恐れており、自國人民の革命ではなく、外国帝国主義の力に頼つて、ある程度の民主化実現を望んでゐるのである。

こうした新民党に対して、既に昨年十五・十二・八に決起した学生は民族反逆分子と断罪し、もはや指導者として認めてないのである。

さらに、その成果を受け継いだ労働者宣言は、明らかに、他の全てに優先して、指導階級の問題が問われていることを示しているのである。

これまで学生、都市小ブル、民族ブルジョアジーが南朝鮮の闘争の前面に出ていたが、日帝、米帝からの借金だらけの工場が乱立し、農民が没落させられる中で、ただ一人、労働者は増大し続け、結束を固めつつあり、反米、反日、朴打倒の民族民主革命を勝利に導ける唯一の階級として、今、その巨大な勇姿を現わしつつあるのだ。

労働者階級の前衛、統一革命党は、「朴は悪いが、カーターは自由の女神」という崇米事大思想を「自國の革命と建設に対して、主人としての態度を持つ」主体思想で打ち破り、工場、職場での占拠、籠城などの経済闘争を闘い抜いている労働者階級を、反米、反日、朴打倒の政治闘争に、民族民主革命に進出させ、学生、農民、都市

の立場に立たなければならない。

マルクス・レーニン主義はプロレタリア階級独裁をカナメとする共産主義と労働運動の結合である。労働者階級の階級闘争、プロレタリア階級独裁を共産主義革命の原動力とするのである。労働者階級を組織してマルクス・レーニン主義党を建設することによって共産主義革命を実現するのである。党組織の建設にとって一番重要なのは、個人ではなく、人民自身の力によってのみなしとげられると

思想上、政治上の路線である。たとえ偽装転向でも拒否し、出獄できなくても非転向を貫き、獄中でブルジョア階級独裁にプロレタリア階級独裁を対置して思想闘争、政治闘争を堅持することがはるかにマルクス・レーニン主義の建設のためになるのである。

いうものであり、彼等とどう結びついて、どう

（二）部署は違えど心は一つ

朝鮮民主主義人民共和国にいる田宮同志たちは、一九七一年一二月の金日成首相（当時）への手紙で「日本人民のため、日本革命のため、全てを捧げ尽す」という態度をもつておらず、また日本の労働者人民の苦しみがどういうものであります。彼等とどう結びついて、どう

連合赤軍問題の総括の中で発見した道、日本人民に依拠し、労働者階級の階級闘争、プロレタリア階級独裁を原動力とし、マルクス・レーニン主義党を建設することで日本革命を実現する道を進んでいく決意である。

これを自己批判しなければならない。私は、う闘うか……がよく解つておらず」と自己批判している。「各国人民の解放はその国の人民自身の力によってのみなしとげられるといふが、それが何を意味するか、それが何を意味するか……がよく解つておらず」と自己批判している。「各国民の解放はその國の人民自身の力によってのみなしとげられるといふが、それが何を意味するか、それが何を意味するか……がよく解つておらず」と自己批判している。

私は、日本革命を小ブルジョアインテリゲンツィアである学生の闘争でなそうと、その挫折から日本人民不信に陥り、社会主義に頼ろうとし、国外逃亡になつたのである。

これを自己批判しなければならない。私は、う闘うか……がよく解つておらず」と自己批判している。「各国民の解放はその國の人民自身の力によってのみなしとげられるといふが、それが何を意味するか、それが何を意味するか……がよく解つておらず」と自己批判している。

私は、日本革命を小ブルジョアインテリゲンツィアである学生の闘争でなそうと、その挫折から日本人民不信に陥り、社会主義に頼ろうとし、国外逃亡になつたのである。

これを自己批判しなければならない。私は、う闘うか……がよく解つておらず」と自己批判している。「各国民の解放はその國の人民自身の力によってのみなしとげられるといふが、それが何を意味するか、それが何を意味するか……がよく解つておらず」と自己批判している。

私は、日本革命を小ブルジョアインテリゲンツィアである学生の闘争でなそうと、その挫折から日本人民不信に陥り、社会主義に頼ろうとし、国外逃亡になつたのである。

この戦争に介入することが必要になったのである  
（『戦争と革命』）

捨場にしているのである。こうした日帝の侵略反革命は、必ず南朝鮮人民の決起を呼び、それに対抗して侵略反革命戦争へと発展するのであり、米地上軍撤退によつて、その動き（軍事侵略）が急速に強まつてゐるのである。

我々は、日帝の積極的肩代りを許さず、朝鮮革命と結合して、なにがなんでもプロ独、社会主義革命で日帝を打倒し、同時に、米帝を追放せねばならないのである。これが朝鮮人民、アジア人民と連帯する道であり、日本人民の解放の道である。

## 帝国主義間矛盾の激化は、日帝を朝鮮東南アジア侵略に驅りたてる

カーターは明らかに、小さな戦争は日帝に肩代りさせ、大きな戦争を準備しようとしている。その証拠がNATO軍の増強であり、ソ連社帝との「自由と人権」論争である。

かつて、アメリカの第一次大戦参戦について、レーニンはこう言った。

「アメリカの参戦の眞の目的は、未來の対日戦争の準備である。とはいへ、アメリカの人民は、やはりかなり大きな自由をもつてゐるので、彼らが、なにか侵略的な目的のため、たとえば日本との斗いのための強制的な兵役義務や軍隊の創設をあまんじて受け入れるとは、ちょっと考えられない。アメリカ人にはヨーロッパの実例で、これがどういうことになるか、わかっている。そこで、アメリカの資本家にとっては、弱小民族の権利をまるめる斗いという崇高な理想のかげにかくれて、強大な常備軍を創設する口実をえるために、

# 国際主義未だば、反フシタ・トロツキズムが残存している。

高原浩之  
ブンドの急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義の第三次ブンドを結成するため、ブンド系の間で綱領論争を組織することは意義のあることである。

### (一) 国際主義派との公開論争

人民民主主義革命とプロレタリア社会主義革命、人民民主主義独裁とプロレタリア階級独裁を混同してはならない。両者の区別（段階性）と連関（連續性）を理解しなければならない。  
「中国の人民民主主義独裁はプロ独の過渡的権力であり」、「中国におけるプロレタリア独裁が人民民主主義独裁ととつた」というように、人民民主主義独裁とプロレタリア階級独裁を混同しています。これは人民民主主義革命とプロレタリア社会主義革命の混同になり、後進国、殖民地国の革命について「民族解放・社会主義革命」と誤まつて見ることになります。

人民民主主義革命はプロレタリア階級（ブルジョア階級ではなく）の指導の下で実現されるブルジョア民主主義革命であり、そこで樹立される権力が人民民主主義独裁であり、それはレーニンが『民主主義革命における社会民主党の二つの戦術』で提起している「プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」のことです。これに對してプロレタリア階級独裁は社会主義革命の権力です。このよううに、人民民主主義革命はその経済的内容からすればブルジョア革命であり、プロレタリ

ア社会主義革命とは全く異なります。人民民主主義独裁は、プロレタリア階級は単独ではなく、農民などと連合して国家権力を握っており、プロレタリア階級が単独で国家権力を握っている社会主義的独裁のプロレタリア階級独裁とは全く異なります。この両者の区別つまり革命の段階性をまず理解すべきです。

次に、この両者の連関、つまり革命の連續性を理解すべきです。人民民主主義革命はプロレタリア階級とも同盟して、この革命の主導権を握り、人民民主主義独裁を樹立し、この革命を新民主主義革命、要するに人民民主主義革命として実現したのです。次に、プロレタリア階級は、貧農＝半プロレタリア階級と同盟するにブルジョア民主主義革命において、まず富農＝ブルジョア階級と、一定の程度では民族ブルジョア階級と、一定の程度では民族ブル

### (二) 国際主義派との公開論争での意見

ア社会主義革命とは全く異なります。人民民主主義革命はプロレタリア階級が指導する点でプロレタリア階級独裁と同一です。人民民主主義独裁はプロレタリア階級が国家権力を握っている点でプロレタリア階級独裁と同一です。つまり、中国のプロレタリア階級は、第一段階を「民族解放・民主主義革命」と言い、また「人民民主主義革命」と言つてゐるのです。これを日本人が「民族解放・社会主義革命」と言つてゐるのです。これがトロツキズムのニセの誤った「永続革命論」の影響です。

とし、人民民主主義独裁を樹立するのです。だから、中国共産党にしろ、ベトナム共産党にしろ、朝鮮労働党にしろ、後進国、殖民地のマルクス・レーニン主義党は、自国の革結局は、民族解放、民主主義革命、つまりブルジョア民主主義革命とプロレタリア社会主義革命を混同する所からこういう誤まりが発生するのです。これはトロツキズムのニセの誤った「永続革命論」の影響です。

ア社会主義革命とは全く異なります。人民民主主義革命はプロレタリア階級とも同盟して、この革命の主導権を握り、人民民主主義独裁を樹立し、この革命を新民主主義革命、要するに人民民主主義革命として実現したのです。次に、プロレタリア階級は、貧農＝半プロレタリア階級と同盟するにブルジョア民主主義革命において、まず富農＝ブルジョア階級と、一定の程度では民族ブルジョア階級と、一定の程度では民族ブル

ア社会主義的課題を実現する過程で、政治的には地主階級の一掃にとどまらず、なによりも外国帝国主義、帝国主義的反動分子からなた封建的、半封建的諸関係の一掃をおこなわなければならず、同時にまた、このブルジョア民主主義的課題の解決を同時に行うプロレタリア社会主義革命である」と言つていますが、ここが誤まっています。「植民地諸国の政治権力」は「帝國主義的権力の性格をもつことになる」ので、要するに後進国、殖民地国の革命において、「このような性格をもつ権力を打倒するため、第一段階の民族解放、民主主義革命、つまりブルジョア民主主義革命を人民民主主義革命にはありえない」と言つていますが、ここが

争がどんなものか知つてゐる。そこで、米帝は「役者やのう」の力で西欧帝に敗れ、レモンの戦闘では米帝に降伏し、二百カイリ海戦ではソ連社帝に沈没させられつつある。

こうした日帝への圧迫は、日帝をして、朝鮮、東南アジア侵略反革命を開始し、日帝を孤立化させようとしている。

総じて、帝国主義諸国間の矛盾が激化しており、日帝は造船の役で西欧帝に敗れ、ソ連社帝とサハロフの「戦争」に介入しているのであ。

こうして米ソ二大帝国主義の対立が激化していると同時に、米帝は貿易・経済戦争で英帝、伊帝、仏帝を容赦なく没落の谷底へ突き落し、日帝に対しても西欧帝と共に、鉄鋼、自動車、家電の輸入規制を開始し、日帝を孤立化させようとしている。

倒、米帝追放、プロ独、社会主義革命へ突き進もう！  
米帝をアジアから追放し、ソ連社帝をアジアに侵入させず、平和と社会主義のアジアにしよう！

緒序

反封建の革命がブルジョア民主主義革命であることは理解しているようですが、植民地放し、打倒する革命はブルジョア民主主義革命ではなく、プロレタリア社会主義革命であると誤解しているようです。植民地国で外国帝国主義を追放し、買弁ブルジョア階級を打倒する革命はプロレタリア社会主義革命ではなく、ブルジョア民主主義革命です。何故なら、資本の全てを廢止、没収するのではなく、一部つまり外国資本と買弁資本を廢止、没収するのであり、他の一部つまり民族資本は廢止、没収されず、むしろ発展の条件を与えられ、民族ブルジョア階級は革命の敵ではなく、日和見的であるとはいえ、革命の味方だからです。

命、つまりブルジョア民主主義革命をプロレタリア階級が指導し、プロレタリア階級、富農を含む農民全体、都市小ブルジョア階級、民族ブルジョア階級の同盟に基づく人民民主主義独裁を樹立するのです。これが人民民主主義革命です。この後、人民民主主義独裁の「権力内部の階級闘争」となり、民族ブルジョア階級と富農がブルジョア階級独裁、資本主義を目指すのに対し、プロレタリア階級は、貧農と同盟し、中農、都市小ブルジョア階級を引き付けて、プロレタリア階級独裁へ転化し、連続的に第二段階のプロレタリア社会主義革命へ前進するのです。

## ☆ マルクス主義の科学的共産主義を学習しよう（上）『共産党宣言』

(上) では『共産党宣言』、(下) では『空想から科学への社会主義の発達』である。『共产党宣言』で重要なのは第一章「ブルジョアとプロレタリア」、第二章「プロレタリアと共産主義者』である。

(一) 資本主義では資本家階級と労働者階級が対立している。

第一章は「すべてこれまでの社会の歴史は階級闘争の歴史である」ということから始まっている。これは、後年、エンゲルスが付け加えたように、原始共産主義社会は例外であり、その後の古代奴隸制社会と中世封建制社会と近代資本主義社会とにあてはまるのである。

「封建社会の没落から生れた近代ブルジョア社会は階級対立を廢止しなかった。それはただ、あたらしい階級、抑圧のあたらしい条件、闘争のあたらしい形態をもつて古いものに置きかえたにすぎない。

われわれの時代、ブルジョアジーの時代は

(二) 資本主義の發展が共産主義社會を生む  
出す。

しかしながら、階級対立を単純化したという点で前の時代とちがっている。全社会は敵対する二大階級にますますはつきりとわかれていく——ブルジョアジーとプロレタリアートに」。

資本主義における階級対立はどのようにになっているのか？ 資本家階級が生産手段を占的に私有している。労働者階級は、生産手段を所有していない。ここから、労働者階級は資本家階級に経済的に従属している。労働者は生きていくためには労働力を売って資本家の雇い人になる以外にない。この労働力の売買はこの経済的従属を媒介し、かつ隠蔽する形式、つまり仮象である。この政治的表現として、資本家階級が国家権力を握って労働者階級を抑圧するブルジョア階級独裁である。こうして雇い人となつた労働者に対して、資本家は、工場内で、労働時間を延長したり、独裁の現象形態であり、かつ隠蔽形態である。有關係に対する、近代的生産力の反逆の歴史

(二) 資本主義の発展が共産主義革命を生み出す。

「ブルジョア的な生産ならびに交通関係、ブルジョア的所有關係、このように強大な生産ならびに交通手段を魔法で呼びだした近代ブルジョア社会は、自分が呼びだした地下の魔物をもはや制御できなくなつた魔法使いに似ている。この何十年かの工業と商業の歴史をみると、それは近代的生産關係に対するブルジョアジーとその支配の生存条件をなす所にはかならない」。恐慌である。「社会に使われるだけの分にすぎない。それを越える分は資本家が利潤として無償で取得し、搾取する。

9

しかしながら、階級対立を単純化したという点で前の時代とちがっている。全社会は敵対する二大階級にますますはつきりとわかれていく——ブルジョアジーとプロレタリアートに」。

資本主義における階級対立はどのようにになっているのか？ 資本家階級が生産手段を占的に私有している。労働者階級は、生産手段を所有していない。ここから、労働者階級は資本家階級に経済的に従属している。労働者は生きていくためには労働力を売って資本家の雇い人になる以外にない。この労働力の売買はこの経済的従属を媒介し、かつ隠蔽する形式、つまり仮象である。この政治的表現として、資本家階級が国家権力を握って労働者階級を抑圧するブルジョア階級独裁である。こうして雇い人となつた労働者に対して、資本家は、工場内で、労働時間を延長したり、独裁の現象形態であり、かつ隠蔽形態である。有關係に対する、近代的生産力の反逆の歴史

(二) 資本主義の発展が共産主義革命を生み出す。

「ブルジョア的な生産ならびに交通関係、ブルジョア的所有關係、このように強大な生産ならびに交通手段を魔法で呼びだした近代ブルジョア社会は、自分が呼びだした地下の魔物をもはや制御できなくなつた魔法使いに似ている。この何十年かの工業と商業の歴史をみると、それは近代的生産關係に対するブルジョアジーとその支配の生存条件をなす所にはかならない」。恐慌である。「社会に使われるだけの分にすぎない。それを越える分は資本家が利潤として無償で取得し、搾取する。

(二)

しかしながら、階級対立を単純化したという点で前の時代とちがっている。全社会は敵対する二大階級にますますはつきりとわかれていく——ブルジョアジーとプロレタリアートに」。

資本主義における階級対立はどのようにになっているのか？ 資本家階級が生産手段を占的に私有している。労働者階級は、生産手段を所有していない。ここから、労働者階級は資本家階級に経済的に従属している。労働者は生きていくためには労働力を売って資本家の雇い人になる以外にない。この労働力の売買はこの経済的従属を媒介し、かつ隠蔽する形式、つまり仮象である。この政治的表現として、資本家階級が国家権力を握って労働者階級を抑圧するブルジョア階級独裁である。こうして雇い人となつた労働者に対して、資本家は、工場内で、労働時間を延長したり、独裁の現象形態であり、かつ隠蔽形態である。有關係に対する、近代的生産力の反逆の歴史

(二) 資本主義の発展が共産主義革命を生み出す。

「ブルジョア的な生産ならびに交通関係、ブルジョア的所有關係、このように強大な生産ならびに交通手段を魔法で呼びだした近代ブルジョア社会は、自分が呼びだした地下の魔物をもはや制御できなくなつた魔法使いに似ている。この何十年かの工業と商業の歴史をみると、それは近代的生産關係に対するブルジョアジーとその支配の生存条件をなす所にはかならない」。恐慌である。「社会に使われるだけの分にすぎない。それを越える分は資本家が利潤として無償で取得し、搾取する。

9

しかしながら、階級対立を単純化したという点で前の時代とちがっている。全社会は敵対する二大階級にますますはつきりとわかれていく——ブルジョアジーとプロレタリアートに」。

資本主義における階級対立はどのようにになっているのか？ 資本家階級が生産手段を占的に私有している。労働者階級は、生産手段を所有していない。ここから、労働者階級は資本家階級に経済的に従属している。労働者は生きていくためには労働力を売って資本家の雇い人になる以外にない。この労働力の売買はこの経済的従属を媒介し、かつ隠蔽する形式、つまり仮象である。この政治的表現として、資本家階級が国家権力を握って労働者階級を抑圧するブルジョア階級独裁である。こうして雇い人となつた労働者に対して、資本家は、工場内で、労働時間を延長したり、独裁の現象形態であり、かつ隠蔽形態である。有關係に対する、近代的生産力の反逆の歴史

(二) 資本主義の発展が共産主義革命を生み出す。

「ブルジョア的な生産ならびに交通関係、ブルジョア的所有關係、このように強大な生産ならびに交通手段を魔法で呼びだした近代ブルジョア社会は、自分が呼びだした地下の魔物をもはや制御できなくなつた魔法使いに似ている。この何十年かの工業と商業の歴史をみると、それは近代的生産關係に対するブルジョアジーとその支配の生存条件をなす所にはかならない」。恐慌である。「社会に使われるだけの分にすぎない。それを越える分は資本家が利潤として無償で取得し、搾取する。

(三)  
後記

反スタ・トロツキズムを批判し、反帝、反社帝、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得する問題で、当面する日本革命に關係し、重要な問題は、一国社会主義と社會主義におけるプロ独の問題である。つまり一国社会主義に反対し、社会主義におけるプロ独を否定する反スタ・トロツキズムを批判しなければならない。そして、一国社会主義は可能であり、必要である。社会主義においても、共産主義を実現するまで、プロを堅持しなければならないというマルクス・レーニン主義、毛沢東思想の路線を獲得しなければならない。この点で、我々と國際主義派は基本的に一致している。

義派は、インドジナ人民の勝利、米帝の後退、ソ連社帝の台頭という情勢の変化を見ていいな。革命の要素、第三世界の民族解放闘争の拡大と西欧、日本の社会主義革命の開始しか見ていない。米ソの第三次帝国主義世界大戦を見ていない。ここから、反米だけで、反ソが欠落している。

我々はこの問題について国際主義派と論争を継続したいと考えている。

△了△

註：この論文は、国際主義派機關紙「プロレタリイ通信」9号の高村論文に対する回答である。（編集局）

人民民主主義革命（経済的内容はブルジョア革命）からプロレタリア社会主義革命の二段階革命です。

我々と國際主義派との間で基本的な不一致があり、論争が必要なのは、当面する國際情勢の認識、当面する世界革命戦略、当面する日本革命の國際的任務に関してである。我々

4月15日発売！

マルクス・レーニン主義党を建設し、  
社会主義国、民族解放闘争と結合し、  
安保粉碎、日帝打倒、米帝追放、  
プロ独・社会主義革命へ

共産主義者同盟マルクス・レーニン主義派  
高原 浩之

定価 700 円

B 6 P 100

ヨア的所有関係の促進には役立たない。反対に、その生産力はこの所有関係にとって強大になりすぎて、この関係がじやまになつてゐるのだ。そして生産力がこの障害をのりこえんや否や、それはブルジョア社会全体を混乱におとしいれ、ブルジョア的所有の存在をあやうくする。ブルジョア的諸関係は、みずからつくりだした富を容れるには狭すぎるようになつたのだ。

「ブルジョア階級の存在とその支配にとつてもつとも本質的な条件は、私人の手中への富の集積、すなわち資本の形成と増加である。資本の条件は賃金労働者である。賃金労働はもっぱら労働者相互間の競争の上に成立つてゐる。ブルジョアジーをその無意志、無抵抗な扱い手とする工業の進歩は、競争による労働者の孤立に代えるに、協同による労働者の革命的團結をもつてする。こうして大工業の発展とともに、ブルジョアジーの足もとから、かれらがその上で生産し、かつ生産物を取得する土台そのものが取りざられる。かれらはなによりもかれら自身の墓掘人を生産する。かれらの没落とプロレタリアートの勝利は、ともに避けられない」。

資本主義が発展すれば、一方では、生産手段を占有するより多くの資本家が、またはより大きな生産手段を占有する資本家が生み出される。他方では、生産手段を所有しない労働者がより多く生み出される。この結果、資本階級と労働者階級の間でより大規模に従属と搾取の関係が生み出され、階級対立がより激しいものとなる。また、生産は社会的な性格を持つのに生産手段を資本家が私有し、社会の必要のためではなく資本家の利益のために生産が行なわれ、社会的な生産物の大部分を資本家が私的に取得するという生産力と生産関係の矛盾も発展する。この矛盾は恐慌を不斷にもたらしつつ、結局は共産主義革命をもたらす。労働者階級が、生産手段を資本

ヨア的所有関係の促進には役立たない。反対に、その生産力はこの所有関係にとって強大になりすぎて、この関係がじやまになつてゐるのだ。そして生産力がこの障害をのりこえんや否や、それはブルジョア社会全体を混乱におとしいれ、ブルジョア的所有の存在をあやうくする。ブルジョア的諸関係は、みずからつくりだした富を容れるには狭すぎるようになつたのだ。

「ブルジョア階級の存在とその支配にとつてもつとも本質的な条件は、私人の手中への富の集積、すなわち資本の形成と増加である。資本の条件は賃金労働者である。賃金労働はもっぱら労働者相互間の競争の上に成立つてゐる。ブルジョアジーをその無意志、無抵抗な扱い手とする工業の進歩は、競争による労働者の孤立に代えるに、協同による労働者の革命的團結をもつてする。こうして大工業の発展とともに、ブルジョアジーの足もとから、かれらがその上で生産し、かつ生産物を取得する土台そのものが取りざられる。かれらはなによりもかれら自身の墓掘人を生産する。かれらの没落とプロレタリアートの勝利は、ともに避けられない」。

資本主義が発展すれば、一方では、生産手段を占有するより多くの資本家が、またはより大きな生産手段を占有する資本家が生み出される。他方では、生産手段を所有しない労働者がより多く生み出される。この結果、資本階級と労働者階級の間でより大規模に従属と搾取の関係が生み出され、階級対立がより激しいものとなる。また、生産は社会的な性格を持つのに生産手段を資本家が私有し、社会の必要のためではなく資本家の利益のために生産が行なわれ、社会的な生産物の大部分を資本家が私的に取得するという生産力と生産関係の矛盾も発展する。この矛盾は恐慌を不斷にもたらしつつ、結局は共産主義革命をもたらす。労働者階級が、生産手段を資本

家階級から奪取して社会の共同所有に移し、集中し、そして生産力の量をできるだけ急速に増大させるであろう」。

共産主義革命で、労働者階級は、生産手段を資本家階級から奪取して社会の共有へ移す。これが資本家階級の支配を廃止し、労働者階級を解放する基礎である。このための条件が、ブルジョア階級独裁を打倒し、労働者階級が国家権力を握るプロレタリア階級独裁を樹立することである。このプロレタリア階級独裁始まっている。共産主義者は、「全プロレタリアートの利益と区別されるような利益をもたらさない」という関係にあるか？」といふことから、

(三) 共産主義革命と共産主義者の任務 第二章は「共産主義者はプロレタリア一般の国民的闘争において、全プロレタリアートの共通の、国籍に左右されない利益を強調し、おしとおす」のであり、「プロレタリアートとブルジョアジーのあいだの闘いが経過するさまざまな発展段階において、つねに運動全體の利益を代表する」のである。労働者階級の資本家階級に対する階級闘争の終局目標として共産主義革命を首尾一貫して目指すのである。

「共産主義者のさしあたっての目的」は「プロレタリアートの形成、ブルジョアジーの支配の打倒、プロレタリアートによる政治権力の獲得」である。「共産主義の特徴をなすもの」は「ブルジョア的所の廢止」であり、「賃金労働を搾取する財産、あたらしい賃金労働を生産してそれをあらたに搾取するという条件がなければふることのできない財産」である。「資本が社会の全員に属する共有財産にかえられ」、「労働者がひたすら資本をふやすために生き、支配階級の利益がそれを必要とするかぎりにおいてのみ生きるにすぎぬ」状態が廢止されるのである。

「労働者革命の第一歩は、プロレタリアートを支配階級にひき上げること、デモクラシーを闘いとることである。プロレタリアートはその政治的支配を利用して、ブルジョアジーからすべての資本を次第にうばいとり、あらゆる生産用具を国家の手に、すなわち支配階

級として組織されたプロレタリアートの手に集中し、そして生産力の量をできるだけ急速に増大させるであろう」。

生産手段がプロレタリア階級独裁の国家所有となることをテコとして、資本家による労働者の奴隸化も廢止され、搾取も廢止され、個人的消費資料の分配も、まず能力に応じた労働、労働に応じた分配から次には能力に応じた労働、必要に応じた分配になり、階級が廢止され、プロレタリア階級独裁も死滅し、完全な共産主義の生産関係、社会となるのである。

△△△